

感染予防対策に向けたヒト及び環境等における感染症起因菌の調査 －エルシニア感染症の調査について－ （倫理審査対象）

1 担当者

保健科学部 細菌科 中嶋 洋、大嶋 律子、河合 央博

2 実施期間

平成 25 年 4 月から平成 28 年 3 月まで （3 年間）

3 背景・目的

エルシニア感染症は、本県では過去に集団事例が 4 例発生し、他県に例のない状況であった。このことから、当センターは県下の環境や動物のエルシニア汚染実態調査を実施し、エルシニアの生態を明らかにしてきたが、散発患者の感染実態は不明である。

一方、小児科分野で川崎病は重大な疾患であり、患者の症状はエルシニア感染症と類似している。このため、エルシニア感染症との鑑別が必要になるが、エルシニアの感染が疑われる患者の多くは、発症初期に抗生剤を投与されており、患者からの菌分離が難しい。したがって、患者血清のエルシニア抗体価を測定して、エルシニアによる感染の実態把握と川崎病との鑑別を行い、感染予防や川崎病の原因解明に役立てる。

4 研究の概要

- ① 全国の病院の小児科を受診した川崎病及びエルシニア感染症が疑われる患者について、医師からの検査依頼により、患者及び関連検体、分離株、患者情報を収集する。
- ② 抗体価測定、菌分離、分離株の性状分析や疫学情報解析を行う。
- ③ 抗体価の測定結果から、エルシニア感染の有無の判定及び川崎病との鑑別を行う。
- ④ 患者情報及び抗体価のデータを蓄積・解析して、感染実態を明らかにする。

5 平成 25 年度の実施状況（平成 26 年 2 月 25 日現在）

(1) 検体数（血清）

平成 11 年度～24 年度までの既存検体数	371 名	(706 検体)
平成 25 年度の検査依頼検体数	130 名	(246 検体)
合 計	501 名	(948 検体)

内訳：小児科依頼分 50 名（86 検体） 同意書添付率 90.7%

姫路赤十字病院との共同調査分 80 名（160 検体） 同意書添付率 70.0%

(2) エルシニア抗体価陽性率

※Yp : *Y.pseudotuberculosis* + Ye : *Y.enterocolitica*

患者 501 名中 91 名 (18.2%)

(3) 川崎病患者

※診断基準を満たす者の抗体価陽性率(Yp)

患者 191 名中 31 名 (16.2%)

(4) 川崎病患者以外の抗体価陽性率

患者 310 名中 Yp:57 名(18.4%), Ye:3 名(1.0%)